演題名：PSMA 陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する
Lu-177-PSMA-617 治療の当院の初期経験

演者氏名：岡本 貴裕
所属先：近畿大学病院 放射線医学教室 放射線腫瘍学部門

・筆頭著者・共著者の氏名
岡本 貴裕[1、3]、細野 眞[1]、植原 拓也[1]、髙濱 聖[1]、福田 隼己[1]、李 在俊[1]、
今村 沙織[1]、稲田 正浩[1]、坂中 克行[1]、松尾 幸憲[1]、
藤田 和利[2]、吉村 一宏[2]、南 高文[2]、菊池 尭[2]、橋本 士[2]、豊田 信吾[2]

1）近畿大学病院 放射線医学教室 放射線腫瘍学部門
2）近畿大学病院 泌尿器科
3）大和高田市立病院 放射線治療科

【背景】
去勢抵抗性前立腺癌は予後不良であり、 アンドロゲン受容体シグナル阻害薬(ARSI)やタキサン系抗がん剤治療後には、有効な治療選択肢が限られている。新たな治療選択肢として Lu-177-PSMA-617(プルヴィクト)が導入された。プルヴィクトは前立腺癌細胞に高発現する膜蛋白である PSMA に結合し、β線を放出することで抗腫瘍効果を示す放射性リガンド療法である。VISION 試験では全生存期間及び無増悪生存期間の改善が示され、本邦では 2025 年 11 月より薬価収載・販売が開始された。当院でも 2025 年 12 月からプルヴィクトによる治療を開始しており、その初期治療成績および有害事象について検討した。

【方法】
2025 年 12 月～2026 年 4 月に当院でプルヴィクトの初回投与を開始した去勢抵抗性前立腺癌 17 例を対象とし、患者背景、治療経過および有害事象を後方視的に解析した。
治療効果は観察期間中の PSA 最低値を用いてプルヴィクト治療開始前からの PSA 最大変化率を算出し、50%以上の PSA 低下を PSA50 response として評価した。
有害事象は CTCAE ver.5.0 に基づいて評価した。

【結果】
年齢は 52～82 歳(中央値：73 歳)、Performance Status(PS)は 0：11 例、1：6 例、治療開始前 PSA は 0.027～5132ng/mL(中央値：85ng/mL)であり、全例に骨転移を認めた。集計時点の投与回数は 1 回 9 例、2 回 5 例、3 回 2 例、4 回 1 例であり、1 例が病勢進行により治療中止となった。17 例中 11 例(64.7%)で治療開始前と比較して PSA の低下を認め、PSA50 response を 5 例(29.4%)に認めた。
Grade 3 以上の有害事象として、汎血球減少 1 例、嘔気・嘔吐を 1 例認めた。

【結論】
当院におけるプルヴィクト治療の初期経験では、17 例中 11 例（64.7%）で PSA 低下を認め、PSA50 response は 29.4%であった。本検討では 1～2 回投与時点の症例が多く、観察期間および投与回数も症例間で異なる。今後、症例の蓄積および観察期間の延長により、プルヴィクトの有効性および安全性について引き続き検討する必要がある。